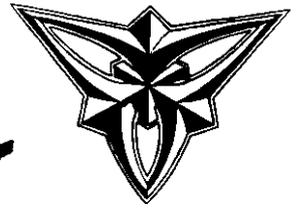


# 川高同窓会報



埼玉県立川越高等学校同窓会  
〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX (049) 225-9071 (直通) <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>  
【学 校】電話 (049) 222-0224 (学校) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>



1966年3月、全日制 brass band 演奏により市民会館で行われた第17回卒業式

草創期  
の授業風景



2011年3月、最後の卒業生

## 1948年

9月15日、定時制が開校。  
県が作成した定時制生徒募集のポスター



1952年、裸電球の下での科学実験



1960年4月、待望の給食室が完成。利用生徒数は日に230名

## 特集

# 川越高校定時制 63年の歩み

### 目次

会長挨拶	会長 田中 正	2
校長挨拶	校長 松下幸夫	2
母校だより(一)		2
人事異動	転任挨拶	3
同窓会総会案内		4
くすの木俳句会		4
秋季散策会		5
23年度案内	川越初雁会(仮称)	5
22年度報告	在京初雁会	5
定時制課程の修了		6
川越高校定時制63年の歴史を振り返る		6
恩師を語る・卒業生の活躍		7
同窓生の回想		9
初雁会だより		10
日高初雁会	越生初雁会	11
川越初雁会(仮称)発足のお誘い		11
同窓会各分野の活動		12
(1) クラブOB会		12
柔道部	蹴球部 籠球部	12
水泳部	弓道部 卓球部	12
野球部	マスターズ甲子園出場	12
(2) 同期会		14
高5回 高6会 川8会 高10回		14
母校だより(二)		15
文化講演会(安田純平氏)		15
母校だより(三)		15
SSHの成果		16
母校だより(四)		16
進路状況	部活動報告	17
連続論考		17
初代校長	増野悦興の謎(九)	18
決算・予算		19
事業報告・事業計画・事務局だより		20



ごあいさつ

会長 田中正

会員の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。皆様のご支援のおかげで、同窓会長年の悲願でございました同窓会報の全員発送を昨年度から実施することが出来ました。心より感謝申し上げます。

同窓会報の全員発送により、同窓会と会員・学校の絆がより一層強くなり、さまざまな変化が出て参りました。ひとつには、終身会費納入者が3月末現在、362名と従来に比し大幅に増加いたしました。

また川越市にも初雁会結成の気運が出て参りました。12月5日に各年次代表者による第1回の川越初雁会設立準備会を開催し、23年2月20日に設立発起人会を開催いたしました。川越市在住の同窓生は6300名もおりますので、今後の動向に大いに期待をいたしております。

一方、川越高校定時制が誠に残念ですが本年度63年の幕を閉じることとなりました。これまで多くの有能な人材を輩出してまいりました。今年度の同窓会報では「定時制課程特集」を5ページに渡って組みました。

昨年の同窓会総会は、例年通り5月の第2日曜日の5月9日に氷川会館で開催いたしました。出席者は147名で盛会でした。

総会では会則を変更して、高校第21回卒業の川合善明川越市長に顧問にご就任いただきました。さらに総会日は5月の最終日曜日に変更されました。また長年にわたりお勤めいただきました

た伊藤豊(高2)事務局長が退任され、副部長恒雄氏(高15)が後任に選出されました。

11月14日、野球部OBチームがマスターズ甲子園に出場、あこがれの舞台でプレーを楽しみました。奇しくも昭和34年夏に戦った熊本県代表の鎮西高校と対戦しました。結果は川越6対11鎮西で時間切れとなりましたが、選手の皆様は球宴出場の充足感を存分に味わった様です。同窓会は、この快挙を祝して支援金を贈りました。

同窓会が毎年バックアップしておりますスーパーサイエンスハイスクールの、平成18年度指定校(母校該当)の中間評価が文部科学省により実施され、母校は「現段階では当初の計画通り研究開発の狙いを十分に達成している。今後ますますの発展が期待できる。」と高い評価をいただきました。

昨年の総会における記念講演は、歴史家、安藤優一郎氏(高35)に「龍馬を継いだ男、岩崎弥太郎」という演題で講演をいただきました。夢半ばに横死した龍馬の意志を受け継ぎ世界の三夢をつくった岩崎弥太郎の興味深い講演をいただきました。

今年には川合川越市長に講演をいただくことになっております。

昨年の散策会は在京初雁会主催で、10月9日に江戸深川発祥の地を中心に散策をいたしました。雨にも拘わらず100名ほどの参加者で盛会でした。懇親会は名勝「清澄庭園」内の「大正記念館」で開催いたしました。

今年の散策会は川越初雁会(仮称)主催で10月22日(土)に開催いたします。3月に全面的な保存修理が完成した川越城本丸御殿と、その周辺を散策いたします。懇親会は氷川会館で行います。皆様奮ってご参加ください。



### 川越高校定時制課程

校長 松下 幸夫

昭和23年に開設された本校定時制課程が63年を経てこの3月にその輝かしい歴史に幕を閉じました。110年を超える長い歴史と伝統のある本校にとって節目の年です。このことについて本号においても特集が組まれておりますことに御礼を申し上げます。

ここに至る県全体の動きについて若干触れておきます。埼玉県教育委員会は平成12年(西暦2000年)に「二十一世紀いきいきハイスクール構想」というものを策定しました。高校教育における多様化する教育ニーズや生徒数の減少に伴う影響などに対応するために、平成11年度から25年度までの15ヶ年間にわたる中長期的展望に立った県立高校のあるべき姿について示したものです。

構想は埼玉県の県立高校教育全般に係る多岐にわたるものですが、定時制・通信制課程の再編整備については次のように言及されています。東西南北の地域バランスに配慮して各地域の定通教育の核となる昼夜開講の定通独立校を設置し、周辺の夜間定時制課程の入学率や在籍率等に留意して統合等を含めた再編整備を図るとしています。

構想策定から10年。狭山高校、豊岡高校、川越高校の3校の定時制課程が、平

今後も母校教育の一層の発展と同窓会活動の活性化のため尽力いたしたいと思っておりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

成20年に新設された昼夜開講型の定時制高校である狭山緑陽高校に統合されることとなりました。

この構想の対象となった本校定時制課程では、存続に向けて生徒、卒業生、保護者、教職員、地域など多くの皆さまによる様々な活動があったようですが、平成19年度入学生を最後に生徒の募集が停止となりました。

昨年4月、二十名余りの生徒で本校定時制課程最後の1年がスタートしました。始業式では私は生徒たちに「今年1年間は、なるべく最後とか少ないとか寂しいとかそういう後ろ向きな言葉は使わないで明るく元気よく張り切ってやろう、力を合わせて新しい世界へ羽ばたく前向きな素晴らしい1年としよう、頑張ろう」と言って励ましました。6名の教職員にも同様にごそのことを指示しました。生徒たちはその言葉通り明るく元気よく頑張りました。この3月に記念すべき第62回生として未来に向かって卒業していきました。

正門を入ってすぐ右の所に定時制課程の記念碑を、また図書館から体育館に続く廊下の「同窓会コーナー」に定時制課程記念の展示ケースを設置しました。御

来校の際には是非とも御覧ください。川越高校定時制に栄光あれ。

# 母校だより (一)

## 人事異動

### 〔全日制〕

**退職**  
 教諭 小島 正喜  
 伊奈学園総合高校(再任用)

**転出**  
 教頭 花岡 雅文  
 浦和第一女子高校教頭  
 教諭 吉野 善行  
 飯能高校  
 内田 憲弘  
 大宮武蔵野高校  
 山崎 邦俊  
 春日部工業高校  
 鯨井ひかり  
 川越市立川越高校  
 市川 京

**養護教諭**  
 教育局県立学校人事課  
 小山 肇子  
 新座柳瀬高校

**主任**  
 寺田 恵  
 日高特別支援学校

**業務主任**  
 金子 卓寛  
 大井高校

**任期満了**  
 教諭(再任用) 和田 俊郎  
 伊奈学園総合高校(再任用)  
 (再任用) 根岸 登  
 小川高校(再任用)  
 (再任用) 高田 勉  
 浦和西高校(再任用)  
 (再任用) 小川 均  
 富士見高校(再任用)  
 (再任用) 高橋 守  
 松山女子高校(再任用)  
 (再任用) 小高 宗仁  
 豊岡高校(再任用)  
 (再任用) 須田 俊夫  
 所沢高校(再任用)  
 (臨 任) 岡田 祐子  
 本校(非常勤講師)

(臨 任) 菊地 滋幸  
 本校(臨 任)  
 (臨 任) 坂本 泰裕  
 川越女子高校(臨 任)  
 実習助手(臨 任) 渡辺 智久  
 所沢高校(臨 任)  
 主事(臨 任) 中川 美樹  
 狭山緑陽高校(臨 任)  
 非常勤講師 富田 邦男  
 富士見高校(非常勤講師)  
 寺西美恵野  
 志木高校(非常勤講師)  
 佐藤 正芳  
 本校(非常勤講師)  
 相馬 幸子  
 本校(非常勤講師)  
 藤ノ木久江  
 川越女子高校(非常勤講師)  
 石田 志保  
 本校(非常勤講師)

**転入**  
 教諭 中田 哲夫  
 福岡高校  
 新津 雅之  
 飯能高校  
 萩野 誠  
 鶴ヶ島清風高校  
 吉田 晃  
 鴻巣女子高校  
 品澤 克明  
 小川高校  
 本福 陽一  
 上尾橋高校  
 権田 拓弥  
 新採用  
 五十嵐恭子  
 新座柳瀬高校  
 佐藤 健  
 狭山緑陽高校  
 秋葉 忍  
 所沢商業高校  
 教諭(再任用) 須田 喜俊  
 川越初雁高校(再任用)  
 (再任用) 小倉 毅  
 松山高校(再任用)  
 (再任用) 安東祥一郎

**〔定時制〕**  
 教頭 大政 正一  
 川口市立川口高校教頭  
 担当課長 鈴木 啓修  
 川越西高校事務長  
 教諭 関口 享子  
 志木高校  
 業務主任 増田 輝一  
 大宮工業高校・定  
 教諭(臨 任) 小須田一樹  
 養護教諭(臨 任) 鈴木真紀子  
 日高特別支援学校  
 非常勤講師 戸田 和彦  
 小川高校  
 関谷 泰子  
 蕨高校(非常勤講師)  
 藤ノ木久江  
 川越女子高校(非常勤講師)  
 岡田 雅史  
 川越市立川越高校(非常勤講師)

# 転任の挨拶

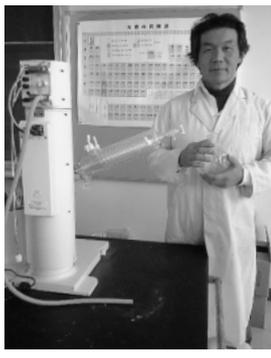
## 感謝

山崎 邦俊(高31)

縁あって、母校の教壇に立たせて頂きました。勤務当初は、自らの高校時代のイメージで、柔道部の指導を中心に生活して来ました。柔道部同窓会には、多大なご支援を頂いたり、総会・元旦稽古・合宿の時、部員達に稽古を付けて頂いたりしました。数年経ち、慣れてくると同窓会の幹事に任命され、多くの先輩達のご指導を仰ぐこととなりました。会計の実務・総会や秋季散策会などの催しを、元事務局長の伊藤先生のご指導のもとに企画運営させて頂きました。

中心になって運営していたものが、常設の事務局が立ち上がり、軌道に乗りました。立ち上げには、田中正会長、吉沢優元校長、金子保夫教頭などの方々に骨を折って頂きました。今では、岡部事務局長が会計事務や会報編集等を全て切り盛りし、教職員のすることは無くなりました。優秀な生徒達に囲まれ、充実した日々を過ごすことが出来ました。

同窓会の、これからの益々のご発展を祈念いたします。



丸章夫氏寄贈の実験器具を手にした山崎教諭

## お世話になりました。

教諭 高橋 守(高20)  
 再任用で生物の高橋守教諭からは、離任のご挨拶に代わり、「ツツガムシ」に関する英文の専門書(共著)の寄贈を受けました。



また、同窓会も同級生職員が

# 総会のご案内

日時 5月29日(日) 9:30より受付

会場 川越氷川会館(川越氷川神社境内) 電話049-222-8417

総会	10:00~	3階・孔雀の間
記念講演	11:00~12:00	//
懇親会	12:20より	3階・鳳凰の間
懇親会費	7,000円	

## 記念講演

演題 「地方自治の現場から」—地方自治の現状と課題—

講師 川合 善明氏(高21回)

川越市長・弁護士・川越高校同窓会顧問

※参加申込 同封別紙「同窓会総会参加申込のご案内」下部についている申込ハガキを使ってお申し込み下さい。

## 第十回「川高くすの木 俳句大会」のご案内

柴崎 育久(中48)

恒例の当俳句大会も十回を迎えることになり、左記のとおり開催いたしますので奮ってご参加下さい。初心者の方も大歓迎です。尚、当会へ投句の際には卒業年次を、ご家族その他の方は当校との関係を附記して下さい。

月例の「くすの木句会」は毎月第1土曜日午後1時より川高同窓会小会議室にて開催しており、当季雑詠五句と席題三句を投句し、互選を行っていただきます。そして、毎回松本旭先輩(中35回)のご懇切な選と添削を頂いて居ります。

なお誠に残念なことです。当初からご指導いただいた小澤克巳氏(高20回・俳誌「遠嶺」主宰)が去年4月19日急逝されました。作家としてそして評論家としても囑望された俳人で、俳壇の星でした。

青春の墓碑なり曝書積み上げて  
小澤克巳

謹んでご冥福を祈ります。

末尾に前大会の作品集を掲げました。大会参加者45名の内の卒業生の句を卒業年次順に掲載しました。学校当局が力を入れられ、在校生の参加者は1年生中心に364名。同窓会から賞品の補助を頂いております。

### ●ご案内

日時 8月27日(土) 午後1時より5時

会場 川高図書館(2階) 同窓会室

投句 夏、秋季雑詠三句

(郵便ハガキに楷書で記述)

投句先 〒350-0045

川越市南通町15-16

佐々木 新

投句締切 8月6日(土)消印有効

会費 投句三句に付金千円を郵便小為替で。(在校生無料)

●第九回同俳句大会作品集より

「卒業生の部」

明滅をかなしみ螢手渡しす

松本 旭(中35)

ぐいぐいと空引き寄せて今年竹

村田のぼる(中41)

柏餅頬張り新聞精読す

奥山 昌美(中47)

刃物屋の鈍色にほふ残暑かな

佐々木 新(中48)

起し絵の翁と寝たる遊女かな

柴崎甲武信(中48)

一管を腰にたばさみ宵祭

桑田 忠夫(高1)

振花や己が姿確かむる

五十嵐 甫(高3)

比叡山より登る朝日や清水掬む

宮崎 敏昭(高3)

せせらぎや紫陽花群れて夕暮るる

桃井 良之(高3)

夏草や関東武士の板碑群

山崎 香侑(高3)

吾に似し羅漢の在す秋の寺

深見 雨牛(定3)

焰の激し土用太郎の窯の中

落合 好雄(高5)

殉教とテロとのあはひ麦の波

沢田 洋々(高6)

溪谷に青く澄みたる河鹿笛

中村夢扇夫(高11)

日輪のすんと落ちて秋刀魚焼く

横山 正樹(高13)

秋祭小江戸の古地図このあたり

岡部つねを(高15)

螢火や大和は水のうまき国

小林 幸二(高17)

鬼百合が咲いて今年も亡父来る

関口 高榮(高17)

梅雨荒れに海になつちやふと叫ぶ孫

栗原忠梨風(高20)

肌脱や太古の人の習はんと

勝浦 敏幸(高21)

団扇手に言葉少ななる吾が子

栗原 由郎(高21)

梅雨の空卓球ばかり上手くなり

小島 正喜(川高教諭)

「在校生の部」

「天賞」

ひまわりは野原一家の長女です

大須 拓弥(1年E組)

「地賞」

海無し県それでも来る来る俺の夏

後藤 紀宏(1年B組)

蝸牛他人と自分を比較せず

小林 秀典(1年E組)

「人賞」

数学のノートに染みる汗と式

林 大和(3年F組)

夏の道揺られて揺らめく向こうの木

内田 寛之(1年B組)

夏の午後クレイコートは砂浜に

森田 涼介(1年C組)

新緑のくすの木見上げ誓う夢

高木 智吾(1年F組)

夕涼み両手をあげて身を伸ばす

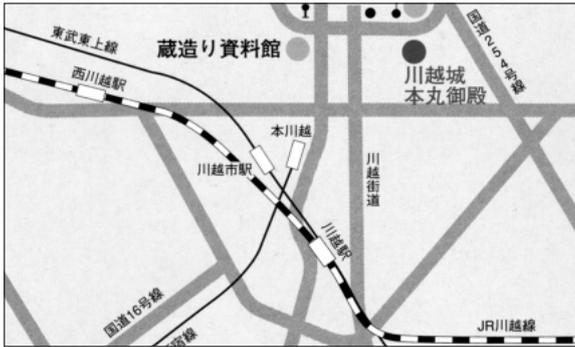
大島 亮吾(1年H組)

# 秋の散策会のお誘い

## 川越初雁会 (仮称) より

川越城本丸御殿の保存修理工事が3月に完成しました。これを祝し、川越高校同窓会は地域事業への貢献として記念碑を建立し、贈呈式を行います。

今回の秋の散策会はこの贈呈式をメインイベントとして、NHK大河ドラマの「お江」ゆかりの喜多院「春日局の間」、一般観光客では見学できない「仙波東照宮」の内部、埼玉県で初の国指定の「旧山崎家別邸」、あらたに整備された「川越城中ノ門堀跡」などを散策します。



**「特別解説者」**

- ・大野正己氏 (川越市立博物館長)
- ・川越城本丸御殿の保存改修について
- ・松尾鉄城氏 (東京国際大学客員教授)
- ・活歴史物「春日局」歌舞伎写真の解説、特に御台お江与の方、國千代、竹千代の母子3人のお花見の場面が見物です。
- ・山野清二郎氏 (鎌倉女子大学教授)
- ・川越氷川神社周辺の山上憶良などの和歌の解説
- ・荒牧澄多氏 (川越市役所一級建築士)
- ・旧山崎家別邸の魅力

(岩堀弘明・記)

- 1 日 時**  
10月22日(土) 午前9時45分集合
  - 2 集合場所**  
川越城本丸御殿前 川越市郭町2-13-1  
電話・049(224)6015
  - 3 記念碑贈呈式**  
午前10時~11時
  - 4 散策会出発**  
午前11時~
  - 5 懇親会**  
午後1時~  
・会場・川越氷川会館(川越氷川神社内)  
・会費・7,000円(女性 5,000円)  
・見学場所の解説と参加者の人数を勘案して、3班に分けて散策します。
  - 6 散策会行程**
- .....
- 1 班**  
川越城本丸御殿→喜多院「春日局の間」→仙波東照宮→大正ロマン通り→旧山崎家別邸→時の鐘→川越城中ノ門堀跡→川越氷川神社→懇親会場
  - 2 班**  
川越城本丸御殿→仙波東照宮→喜多院「春日局の間」→大正ロマン通り→旧山崎家別邸→時の鐘→川越城中ノ門堀跡→川越氷川神社→懇親会場
  - 3 班**  
川越城本丸御殿→旧山崎家別邸→大正ロマン通り→喜多院「春日局の間」→仙波東照宮→川越城中ノ門堀跡→川越氷川神社→懇親会場

### 秋季散策会

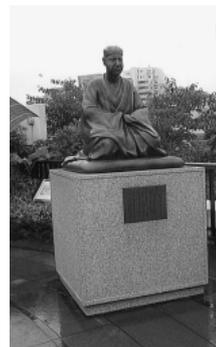
## 22年・秋散策会の報告

### 在京初雁会

夜来の雨が続き、当日の集まりを懸念していたが、集合時間よりも早く、約100名の方が参加していただいた。夫婦で参加する方が多く、アットホームな集いとなった。幸い小雨となり無事出発できた。

今回は隅田川を渡って、いまだ下町の雰囲気を色濃く伝えている江戸深川発祥の地を散策することとなった。

まず、深川という地の縁の「深川神明宮」に参拝した後、川越と俳句は切っても切れないので、松尾芭蕉像に敬意を表す。



松平定信侯の「靈巖寺」を経て下町の風情を再現した「深川江戸資料館」を見学。



最終目的地の「清澄庭園・大正記念館」で懇親会となった。まずは、鏡割となった。



懇談の中で、在京初雁会顧問の田中隆氏(中42)が、この会場で結婚式を挙げたうえ、今年ここで、金婚式をした話、マスターズ甲子園出場、俳句にまつわる話、深川近辺に勤務した話、など多彩な逸話が出た。

最後、元応援団員のリードで校歌・応援歌の蛮声を上げた。



そして和やかなうちに、集合写真に収まり、お開きとなった。

大館 廣(高21)

# 特集 川越高校定時制課程 63年を振り返る

平成23年3月5日。最後の20名が卒業、埼玉県立川越高等学校定時制課程が幕を閉じた。

63年間に5,287名(中心校2,870名、朝霞分校661名、所沢分校668名、入間川分校764名)が卒業。入間川分校に設置された昼間2年制の別科は324名が修了)が巣立っていった。川越高校定時制課程63年の歴史を振り返って見よう。

## 定時制の誕生と草創期

占領下、しかも食糧不足の中、埼玉県立川越高等学校定時制課程は、川越高校を中心校に朝霞、入間川、所沢の3分校体制で、昭和23年9月15日に開校、勤労青年や社会の大きな期待を受け、その第一歩を踏み出した。



中心校 川越



定時制給食施設完成

開校当時は、停電に悩まされたり、夜間照明のないグラウンドでの体育、冬の寒さとの戦い、給食設備がなく、10時11時まで食事にありつけない生徒もいた。

定時制に対する期待は高く、分校設置者である市町村は教員の給料以外の費用を負担し、校舎の確保、独立校舎建設と大きな役割を果たした。

定時制課程には、いろいろな経歴を持つ生徒が集まってきた。生徒には、8時間の労働のうえに全日制の生徒と同じ学力が求められていた。

昭和26年県内の全日制の生徒数3万1千人余りに対し定時制の生徒数は1万1千人余り。中学校卒業者の1/3程が高校へ進学する時代であった。

「暗くて、寒くて、腹が減って、疲れて、眠くとも、理想を求め、もっと勉強する時間が欲しい」という時代であった。

教職員は小麦粉や援助物資の脱脂粉乳の確保、パン屋との交渉のため東奔西走した。昭和35年、待望の給食室が完成し、パン・うどんの給食が始まった。

## 入間川分校別科

昭和20年代の後半は、農村の経済事情や女子教育に対する古い考え方もあって女子の進学は低かった。2年程度で女子教育を行う目的から、昭和27年、入間川分校に家庭科を主とした別科が設置され女子を対象とした昼間の授業が行われた。入間川分校は高校進学率が高くなった昭和41年3月別科が廃止された。



入間川分校

## 経済発展と定時制生徒

日本の経済が軌道に乗り、高度経済成長が始まると川越高校

定時制課程には、全国から生徒が集まるようになった。昭和30年代の後半には、全校生徒の1/3は地方出身者で占められていた。定員が全日制を上回る時代であった。学びながら経済成長の一端を担っていたのである。

定時制への期待が高まる中、新たな支援制度が作られていった。

## 事業主と教師の会

昭和37年川越高校と川越工業高校定時制に通う生徒の事業主および両校の教員で組織するETA「事業主と教師の会」が発足した(分校にも同じような組織があった)。授業に間に合わせるための配慮や下校時の足の確保、雇用の開拓、両校への財政的支援などを行った。ちなみに、校門の前に東武バスの停留所があり登下校時利用していた。

## 卒業生の進路

学ぶ意欲は大学進学の結果にも表れ、国立大学や早稲田、中央など有名私立大学に進学した。特に草創期にこの傾向が高い。

卒業生の中には弁護士、裁判官、医師、税理士、教育界では大学の教授、小中高校長、会社の経営者など多彩な人材を輩出した。また卒業後の進路では、不利に扱われることのない公務員を志望する生徒が多く、市役所

の管理職の多くが定時制卒業者で占められていた時代もあった。定時制に通い工場で働いた生徒が、今では海外で技術指導している例もある。

## 定時制課程の行事・部活動

文化部や運動部等の活動は設立当初から盛んで、体育祭は分校と合同で行われ盛大だった。合同の演劇発表会も行われた。県定通総合体育会や全国大会での活躍も目立った。時には全日制と競い大会に参加したこともあった。昭和40年には野球部が念願の全国大会に初出場し、初陣ながら準々決勝へ進出した。



全国大会出場チーム

この頃になると中心校の施設は次第に充実した。昭和41年に50mプールが、校庭には18KWの照明施設が完成した。

## 分校の廃止

高校の進学率が向上すると県内各地に高校が新設されるようになった。定時制併設高校も増

恩師を語る ①

竹内忠好先生を偲んで

松本喜作(元教諭)

竹内先生が教頭として就任してから間もない昭和61年頃より生徒数が急増し、一時は1学年3クラス編成となりました。

本校は「特色ある学校づくり」の一環として「大学入学資格検定試験」対策としてのカリキュラムを編成し、能力ある生徒は卒業を待たずに大学へ進学しました。

昭和63年の学校教育法の改正により、「定時制課程及び通信制課程については修業年限3年以上」となりました。本校は独自に修業年限3年以上の導入を図る研究を進めて来ました。その甲斐あって平成3年度に県から「修業年限3年以上に係わる諸課題の研究」の研究委嘱を受け、続いて「修業年限3年制課程の設置について」の研究指定校となりました。この研究報告をもとに、平成5年4月より従来の定時制課程の他に「修業年限3年制定時制課程」が本校に併設されました。しかし、3年制課程の設置には大変な困難もありました。新たに発足した「修年3課程」は夜間定時制で、しかも「修年4課程」と同じ時間帯に履修時間割を編成し、定時制課程3ヵ年で教科・科目の60単位を履修・修得し、これと平行して通信制課程が設置されていない本校で通信制課程を併修し、卒業に必要な残りの20単位を履修・修得しなければなりません。

この問題解決が「大宮中央高校の共同学習場を川越高校へ委嘱する」ことと、「併修に係わる職務に当たる本校教員に兼任教諭の発令」です。このように様々な改革を推進し、本校定時制の教頭として11年間勤務しました。

また、先生の長い教師生活は、部落解放運動とともに歩んだ教員生活でもありました。人権教育の柱といわれる「同和対策審議会答申」を出した磯村英一会長が、竹内先生の退職を知って次のように述べています。「私は、彼の退職には若干関係がある。当然彼は校長の職に就いているべきであるが、同和問題の指導に忙しく、教頭の仕事さえ差し障ることがあったので校長になって同和問題を忘れては困る、と昇格に待ったをかけていたので退職と聞くとすまないような気がする。」と言われたことを聞き、

竹内先生が定時制教育に情熱を傾けたあの鉢巻き姿を思い出すと同時に、63年間の輝かしい伝統と歴史をもつ川高の定時制が、同窓生や働く生徒の希望の灯を消し去る現実を見たら、冥界であの渋い顔でいるはずだ。



竹内忠好先生



朝霞分校



所沢分校

え、川越高校定時制課程各分校はその役目を終える。昭和44年3月には朝霞と所沢分校、昭和45年3月、入間川分校で最後の卒業式が行われた。

入学者が徐々に減る

昭和53年の入学者は25名。県内定時制課程の生徒数は昭和40年代半ばから減り始め、昭和53年にはピーク時の半分以下になっていた。しかし第2次ベビーブームにより志願者が一時的には増加し、本校も1学級募集のところ臨時的に2学級増となった。

定時制の役割の変化

中学卒業者のほとんどが進学するようになると、入学してくる生徒の多様化が進んできた。働きながら学ぶ生徒は年々減少し、仕事もパートやアルバイトが多くなってきた。高校の中途退学者、中学時代不登校だった生徒の入学が目立つようになり、さらに外国籍等の生徒や年齢の

高い生徒など、多様な生徒が定時制に入ってくるようになってきた。それに対応すべく本校定時制課程は、昭和60年以降様々な改革に取り組んできた。

※三大改革

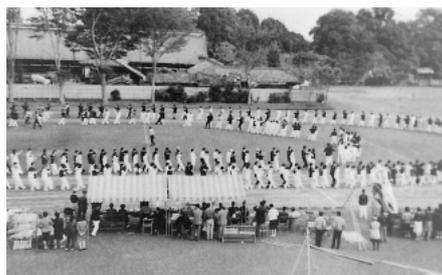
- ① 修業年限3年制課程の併設
- ② 大学検定での合格科目を単位修得とみなす制度
- ③ 技能連携制度

※その他の取り組み

外国籍等の入学生徒に対してまず本校教員が特別対応していた。その後、県から多文化共生推進員が派遣されるようになった。また本校独自のチームティーチングによる授業と学習支援員の活用。最近の就職難への対策としては、就職支援アドバイザー制度の活用とハローワークを通しての就職者が今までに大きく増加した。

全日制と定時制

川越高校は一つの学校に全日制と定時制の課程があり、施設設備の共用ということでの制約はあったが、施設設備の充実のために一緒に取り組み協力してきた。



中心校・分校合同運動会



国際交流の仲間

心校分校合同)は休日の昼間に実施された。入学式・中心校分校合同卒業式には全日制吹奏楽部・応援部による応援もあった。川越高校創立100周年をきっかけに国際交流事業が行われるようになり、オーストラリアのセント・オーガスティン・カレッジに隔年で生徒を派遣するようになった。定時制の生徒も第3回、第5回、第7回と参加している。全日制定時制合同でのホームステイ交流は、おそらく

恩師を語る 2

英語教師・船戸先生

足立百合子(10回)

勤め帰りの定時制授業は、仕事の疲れで目は開いていますが頭はお休み時間の私でした。そんな時、英語教師の船戸英夫先生に出会いました。船戸先生は立教大学教授になられた方なので、今までの英語の授業で聞いたことのない美しい発音で目が覚めました。

先生の優れた頭脳と教養の深さは、私の薄らぼんやり頭に唐辛子を振りかけられた感じで、以後英語だけは字引を離さず予習して授業に臨み質問することで先生に認められようと思いました。

船戸先生は英語に限らずどんな分野の質問でも納得のいく答えをされました。英単語の語源から聖書にある物語など説明もあり生徒に感動を与えました。私にとってショックを受けた言葉は先生に「この単語、何度も調べてもわからないんです」と質問しましたら「僕は一日百回、辞書を引くよ」と言われ恥ずかしさで口がきけませんでした。先生は英語辞書の出版をなさった学者さんです。私など千回でも間に合ないと思いました。

先生は気持ちに余裕のない生徒達に心豊かになる教養と学問に興味を持たせる教育をされ、感謝いたしております。

人的環境の良い定時制で学べて感謝!



県内では、学校単独の事業としては本校のみと思われる。この間、本校では独自の改革により入学者は県内の全定置校の中で一番多くなった。中学卒業者が大幅に減少する中、埼玉県では平成12年、「21世紀いきいきハイスクール推進計画」が策定され、県立高校の再編整備計画が発表された。平成16年9月、本校定時制の募集停止の素案が発表されると存続のための署名活動がなされた。

川越市議会も、「川越高校定時制存続要望に関する意見書」を知事に送付した。しかし、平成20年度から募集停止となった。その間、サッカー部は全国大会出場と活躍した。21年度は3年生の鈴木麻衣さんが全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会で、本校としては昭和63年の辻本由起江さんに続き、二人目の文部科学大臣賞を受賞した。

県内の高校定時制課程の入学者は平成17年度1,288人、平成22年度には2,057人に増加、殆どの学校が定数一杯の状況にある。このような環境下にも拘らず、埼玉県立川越高等学校定時制課程は、平成23年3月5日、20名の卒業生を送り出し、閉課程となった。

例えば、高校の定時制課程は、時代時代に必要とされた教育の補完機能を果たしてきた。川越高校定時制課程を引き継ぐ狭山緑陽高校に期待する。平成20年、新任教頭として着任、閉課程までの最後の3年間を振り返ってみたいと思います。1年目。生徒104名、教職員13名。1年生はおられません。生徒は大変落ち着いており、授業は整然と行われ、目立った生徒指導もない状況に驚きました。先生方の指導の成果です。部活動では、女子バレーボールは県準優勝、陸上競技部員の全国大会出場。男子バスケットボールも活躍しました。くすのき祭、体育祭、球技大会等学校行事へ生徒達は熱心に取組ました。9人が大学進学する等、生徒のパワフルな活動が印象的な1年でした。この年、35名が卒業しました。

この間、本校では独自の改革により入学者は県内の全定置校の中で一番多くなった。

定時制課程の廃止

この間、本校では独自の改革により入学者は県内の全定置校の中で一番多くなった。

平成20年、新任教頭として着任、閉課程までの最後の3年間を振り返ってみたいと思います。1年目。生徒104名、教職員13名。1年生はおられません。生徒は大変落ち着いており、授業は整然と行われ、目立った生徒指導もない状況に驚きました。先生方の指導の成果です。部活動では、女子バレーボールは県準優勝、陸上競技部員の全国大会出場。男子バスケットボールも活躍しました。くすのき祭、体育祭、球技大会等学校行事へ生徒達は熱心に取組ました。9人が大学進学する等、生徒のパワフルな活動が印象的な1年でした。この年、35名が卒業しました。

最後の三年間

教頭 大政正一

平成20年、新任教頭として着任、閉課程までの最後の3年間を振り返ってみたいと思います。1年目。生徒104名、教職員13名。1年生はおられません。生徒は大変落ち着いており、授業は整然と行われ、目立った生徒指導もない状況に驚きました。先生方の指導の成果です。部活動では、女子バレーボールは県準優勝、陸上競技部員の全国大会出場。男子バスケットボールも活躍しました。くすのき祭、体育祭、球技大会等学校行事へ生徒達は熱心に取組ました。9人が大学進学する等、生徒のパワフルな活動が印象的な1年でした。この年、35名が卒業しました。

また本校の特色であった「修業年限3年生課程」が終わりました。平成22年、最終年度。生徒21名、教職員5名です。教職員は減り、大幅な授業担当の変更によって、年度当初生徒はやや落ち着かず、不平不満も聞こえてきました。しかし、教職員は生徒との対話を大事にしながら教育活動に全力を尽くすことによって、卓球部は2年連続全国大会出場、県生徒生活体験発表会優秀賞受賞という成果を挙げることができました。

また、学校行事は生徒と丁寧に見直し、特にくすのき祭は大成を取れたと思います。お互い助け合いながら、邁進した1年でした。

平成23年3月5日。「第62回卒業証書授与式並びに閉課程式典」をもって川越高等学校定時制課程、最後の20名が卒業し、63年間の定時制課程が幕を閉じました。



定時制記念碑の前で

最後のPTA教育振興会長

萩原幸子(16回)



縁あって、PTA教育振興会に関わりました。閉課程まであとという間の6年間でした。昭和36年4月、川越一中から憧れの川越高校に入学しました。中学の同窓生が部活動に汗を流す頃に登校し、蛍光灯の下での勉強が始まる。

当時金の卵と言われ中学卒業

と同時に地方から集団就職した若者で、社会は活気を呈していた。会社や病院の寮から通学する生徒、自宅から2時間近くかけて通勤し、そこから学校へ通学、帰宅は毎日11時過ぎという猛者のいる中、通学環境に恵まれていた私は、苦勞の苦の字も無かった。給食室が出来て、長椅子に体を寄せ合って、うどんやパンでお腹を満たし教室に向かった事が懐かしい。入学時2クラスが卒業時には1クラス。一緒に進級できるよう授業の合間に助け合ったことなどが年1回の同窓会でよく話題となる。

入学後一番印象に強かったのが先輩達だった。まだ中学生気分の抜けない私にとって初めて出会う「大人」だった。自分と幾つも違わない先輩がとても眩しく、近づきがたかった。学年が上がるにつれ仲間が減っていく。行事は中心校分校合同開催。体育祭は、1000名を越えた。泊まりがけの修学旅行では触れ合いも深まり、その後交際に発展した生徒も結構あったように記憶している。

30数年ぶりに、PTA教育振興会役員として学校行事に出席。定時制の変化や生徒の現状に接し、今更ながら私達の過ごしてきた定時制生活が、遙かに遠くになったのを自覚した。しかし現在生徒の置かれている実情を考えると、昔の懐かしさばかり

に浸っていいられない。

何十年か後、あの時は良かったなと思える「今」を、生徒一人一人がその胸に留められればと願うばかりです。

### 卒業生達の活躍

#### 学窓から半世紀

加藤多三郎(5回)



入学したのは昭和29年春のことでした。当時、私は地家裁川越支部に奉職したばかりで、法律のことは全く分からなかったが法学に向けた知識欲は旺盛で、日中の勤務の疲れも苦にせず、地下鉄に揺られ4年の間ひたすら法律書と判例評釈それからゼミ討論を学びました。勿論、目的は司法試験を突破することでしたが、最高裁独自の職員上級試験に合格することが出来、次いでその2年後、全国規模の書記官研修所に入所を許され1年間の厳しい研鑽を受けることになりました。

研修が終わると独立の書記官として裁判官の下で裁判事務に従事し、法令・判例の調査報告活動も担当しました。

裁判事務を担当する速記官や事務官を含めたユニットを裁判体と言いますが、この裁判体の数が裁判所の規模の大小を示します。この裁判体の数に相応の人数の事務局が置かれ、支援と裁判所全体の機能を支えています。こうした部内で、本来の書記官として扱いは事務局の課長、審査官、事務局長等を単身赴任も含めて歴任し、最高裁第一法廷主席書記官を最後に退官し、その後約15年に亘って民事・家事調停委員と司法委員を務めさせて頂き、司法部を去らせて頂きました。想えば随分遠くまで来たものだというのが実感ですが、これも漢文の佐藤先生、英語の立教大学の教授になられた船戸先生、情熱熱い生物の愛川先生など川高定時制の名物先生方のご指導と負けん気の夜学生同志の切磋琢磨の賜物と感謝いたしております。

恥ずかしながら、平成17年春、天皇陛下から瑞宝小授章を頂きました。日々、考える事が多く、あまり感じなかったけど、時は…、急行列車のように過ぎて行く。ふと、遠い学生時代の記憶を思い起こす。伊佐沼を通り過ぎて夜の闇の中を残雪が白く光る冬の寒い

夜、自転車在必死にこいで通学路を急いだ。手は凍りつき急いで風呂場に行き、凍りついた手を湯船にいれると、手は温まるどころか痛くしびれて、あわてて引き抜いた記憶。あの日々。あれから40数年が経った。そして今、私は花屋を営む傍ら、川越の蔵の街で人力車を営業している。日本中の商店街が大型店に居場所を追われて廃れている。私も川越に育ち、川越で商売させていただき、川越の町興しになるはずと思ひ觀光人力車を始めた。



遠方から川越を訪れたお客様一人一人に人力車を通じて、川越人のやさしい心を発信したい。そして開業以来八年の歳月が経ち、人力車が川越觀光の振興の力になり始めてきたことを確信してきた今日この頃です。

平坦な道だったとは言えませんが、今では川越の觀光産業の一つになったような気がします。昨今のニュースで政府は、訪日外国人旅行者を現在の500万人から2000万人という目標を立てています。川越市も例外ではなく、市長をはじめ商業

觀光課が一丸となり、年間觀光客1000万人を目標としていることは周知の事実です。従って、私どもスタッフ一同さらなる努力を尽くし、川越の発展に寄与したいと考えています。

#### 自然との取り組み

佐藤利夫(32回)



この度、63年間の歴史がある定時制が閉課程になると知り、とても残念に思います。私にとって高校生活はとても有意義であり貴重な4年間でした。在学中は諸先生方にご指導頂き、沢山の友人に出会い、生活体験発表で全国大会出場というとても良い体験をさせて頂きました。担任の江原先生には大変お世話になり感謝しております。

卒業後は鉄道会社に就職し、書道の師範の資格も取り、余暇を利用しお店の看板も多数作りました。木と向き合っている中で木材会社の社長さんとの出会いがあり、「山の豊かさが、やがて漁業を支えるんだよ」私はこの言葉に心を打たれました。今の社会は、利益が優先し自然の森林が放置されています。

私は生涯を通して自然と向き合  
つていきたいと思っています。

現在、私は住宅地の大木の伐  
採、雑木林の間伐などの仕事に  
携わっています。私はこれから  
先も自然の豊かさが保たれて行  
くように社会に貢献していきたい  
と考えております。

時代の流れで閉校となります  
が、働ながら学ぶという定時制  
は忍耐をも高め、人間形成に多  
くの役割を担っています。定時  
制での想いを心と魂に刻みつつ、  
どこかでこのような学び舎が存  
続することを祈っております。

### 父 神藤登として私、 定時制バスケット部の思い出

神藤文博(46回)



父・登

私は親子2代、川越高校定時  
制で学んだ。父、神藤登は40回、  
私は46回入学である。

父は富士見市教育委員会総務  
課に配属になった時、養護学校  
の先生や精一杯毎日を過ごして  
いる子供達の姿に感動し、これ  
からでも勉強ができるのではな  
いかと思ひ、川越高校定時制を  
受験したそうだ。働しながらの  
通学は、職場の皆さんの理解と  
協力で成り立つものだが、仕事



全国大会出場メンバー

の都合での遅刻や、欠席など4  
年の間には色々苦労があったと  
聞いている。

父は39才で入学したが、若い  
人達との勉強やクラブ活動など  
充実した高校生活を過ごしたそ  
うだ。卒業後は、埼玉大学経済  
短期大学部に進学した。父は市  
役所では、特に食の安全を求め  
て地域農業発展のための仕事に  
従事し、市役所を退職後は、住  
み良い富士見市を目指し、市議  
会議員に立候補、当選した。志  
半ばで逝ってしまったが、川越  
高校で学べたことで、最後まで  
充実した人生を全うしたと思う。

私は必修授業であったバスケ  
ットボールに興味を持ち、体育  
教師にお願いして部活動として  
始めることになった。平日の練  
習は授業終了後一時間程と短い  
ため、週末や夏休みも仕事時間  
を調整しながら集まり練習する  
ことにより見違える程に上達。  
そして地区大会を勝ち進み全国

大会への出場を果たした。結果  
はベスト16で終わってしまった  
が良き仲間達と支え合いながら  
目標に向かうという最高の高校  
生活を送ることが出来た。私た  
ち親子は、埼玉県立川越高等学  
校定時制課程で学んだことに本  
当に感謝している。ありがとう  
ございました。

### 民謡歌手を天職と思ひ

澤瀉秋子(56回)



私は平成17年度定時制課程の  
卒業生です。私は地元川越に生  
まれ、母の民謡歌手という環境  
から2才で舞台を踏み、ずっと  
民謡歌手を夢見て頑張ってきた  
ました。それが現実のものとなっ  
たのは17歳の時、ピクターレコ  
ードから「若い民謡」でアルバ  
ムデビューを果たしました。

2、30年前民謡がブームだっ  
た頃と今は違います。10代でア  
ルバムデビューなんて考えられ  
ない時代です。私もデビュー前  
は全国大会などにも挑戦して全  
て優勝を獲りましたが、大会の  
優勝者は大勢いても、ステージ  
プロとして活躍できる人はほん  
の一握りです。

幼少期から皆さまに育ててい  
ただいたお陰で、高校生の頃  
は舞台の仕事も忙しく、お弟子  
さんも持っていたこともあり定  
時制を選んだのですが、本当に  
ありがたいことに菊池校長先生  
自らが、進んでCDの販売をし  
て下さったり、お仕事の話をい  
ただいたこともありました。

卒業する時は、やまぶき会館  
で生徒と近隣の方を対象とした  
コンサートまで開いていただき、  
本当に感謝しております。

実は私、民謡歌手だけでなく  
三味線でも日本一を獲っており  
津軽三味線奏者という肩書きも  
あるんです。NHKテレビでも、  
異例のことでしたが津軽民謡の  
弾き語りを取り上げていただき  
ました。大変な時代ですが、こ  
んな時代だからこそ良い物は残  
ると信じて頑張っていると思  
います。この文章を読んで私を  
知って下さった方も同窓生とい  
うことで、これを機に応援して  
頂けましたら幸いです。

### 最後の卒業生として

生徒会長 鈴木麻衣



今年で川越高校定時制は閉課

程を迎えますが、入学当初に「最  
後の卒業生」と聞いた時は、ま  
だ沢山の先生方や先輩方がおら  
れたので特に実感はありません  
でした。先生方も優しく丁寧  
に勉強を教えてくださいました。行  
事関係では先輩方と協力しあっ  
たことなど良い思い出となって  
います。そして、周りの協力も  
あって3年生の時には、生活体  
験文発表の全国大会で最高賞を  
受賞する事ができました。

周りのみんなに恩返しは何か  
の形でできないかと思ひ、生徒  
会に入りました。引つ込み思案  
だった私が毎日学校に行きたい  
と思える程、学校生活はとても  
充実していました。しかし、4  
年生になって「最後の卒業生」  
という意味がやっと分かった気  
がします。常に学校にいる先生  
は約3人位、あとは非常勤の先  
生方で、知っている先生は転勤  
では新しい先生ばかりになり  
ました。色々な事に慣れるまで  
凄く時間がかかり、最初は苦し  
い事が多かったことも事実です。  
しかし、ここまで頑張ってきたら  
れたのは今までの楽しい学校生  
活の思い出と、なによりも励ま  
し支えてくれる方々がいたから  
頑張ってきたのです。周りで支  
えていただいた皆様には、本当  
に感謝しています。

卒業式、私たちは「最後の卒  
業生」として、誇りを持って卒  
業します。

# 初雁会だより

## 日高初雁会三十年

会長 弓削多光一(高4)

日高初雁会は昭和56年に発足し、私は当時から幹事の一人として参加しました。今年で30年、人それぞれの歴史があるように、日高初雁会も歴史を重ね、初代会長駒野昇氏(中37)、二代関真(中47)、途中空白期間もありましたが、復活し現在私が3代目に至っております。

総会と共に必ず行われる記念講演会では意義あるお話にいつも感銘を受けております。また、総会には近隣の初雁会(飯能、狭山、坂戸、鶴ヶ島、越生)との交流を持っております。平成19年からは飯能日高紫苑会(川越女子高卒)の参加を頂くなど活性化されてきました。最後に第25回までの記念講演会の講師と演題を紹介します。それぞれの時を喚起して頂きたく、左の別表をご覧ください。そして各回講師の諸先輩(敬称を略させていただきます)にあらためて感謝申し上げる次第です。

- 第1回(昭和56年) 「県政ふるさと運動」 清水義一(中39)
- 2回 「最近の国際情勢から」 松本博一(中37)
- 3回 「激動する中国情勢」 野上 正(中37)
- 4回 「河越氏とその館について」 小泉 功(川高教師)

- 5回 「二十一世紀に向けた埼玉づくり」 篠原幸一
- 6回 「日光街道と千人同心」 日高を中心として 野口正久
- 7回 「最新の作品とその背景」 野口赫寅
- 8回 「当面の景気動向」 吉野重彦(中47)
- 9回 「鎌倉街道を想う」 栗原伸道(中37)
- 10回 「昭和天皇を偲ぶ」 田中 直(中37)
- 11回 「国際紛争と民族問題」 佐々木忠一(中32)
- 12回 「二十一世紀に向けた埼玉づくりと県西地域」 石原 猛
- 13回 「私の心に残るあの一言」 渋谷 健(中47・高1)
- 14回 「地方自治雑感」 関口一郎(高5)
- 15回 「県政の課題と展望」 西島昭三(高6)
- 16回 「がん治療の現況」 関根 毅(高6)
- 17回 「生活習慣病あれこれ」 横田香苗(中41)
- 18回 「ラテンアメリカとわたし」 鈴木邦治(高6)
- 19回 「ミートピアと楽農のまちづくり」 笹崎静雄(高18)
- 20回 「旅する心」 犬竹郷美(高6)
- 21回 「みんなで考えるまちづくり」 日高武美(高4)
- 22回 「キムチづくり二十年」 加藤武男(高13)

- 23回 「オーストラリアと日本」 大浦一郎(高4)
- 24回 「武州一揆から川越一揆へ」 栗田良助(中45)
- 25回(平成22年) 「世界情勢と私たち」 椎橋勝信(高15)

## 二年目を迎えた越生初雁会

事務局長 新井 康之(高15)

平成22年7月3日(土)越生町中央公民館に於いて2度目の越生初雁会定期総会が開かれた。総会出席者27名、委任状24名(会員数67名)。

ゲストに行政から田島公子越生町長、新井雄敬教育長を迎え、さらに日高初雁会弓削多光一會長、毛呂山初雁会岸昭夫会長の臨席を仰いだ。

越生初雁会が発足したのは前年の4月26日、川越高校同窓会の地区同窓会としては19番目の一番若い組織であった。

石田雄介会長(中学47回)のもと61名の会員がその後67名となったが残念ながら高齢の顧問1名が亡くなった。

「年代の差があっても親しみと好感をもてる地区同窓会」(石田会長の話)が越生初雁会である。いずれの初雁会でも会員の平均年齢の高さが悩みの種、越生初雁会も例外ではないが、高校38回の若手(堤憲章)の役員登用が総会の席上満場一致で承認された。

あっとい間の一瞬だったが、この間、役員会を4回開催、越生初雁会報も創刊にこぎつけた。



## 川越初雁会(仮称)設立準備会

岩堀弘明(高8)

現在川越以外の各地域に19の初雁会があり、その活動が会報に報告されてます。川越にも初雁会を作らないかとの声は以前からありましたが、卒業生が多いこともあり、名簿作成が困難なため実現に至りませんでした。昨年実施された会報の各人配布により、会員の同窓会への認識が深まってきました。又一昨年同窓会名簿第19号が発行され、川越市内在住者名簿の検索、作成が容易になり、初雁会を発足させる環境が整ってきたように思われます。

編集委員会は加藤博之副会長が編集人に就任、酒本忠雄副会長、浅見登監事、新井康之幹事の4人。会議に会議を重ね、(有)メガロード(田口隆良代表)の協力のもとなんとか刊行にこぎつけた。2号目は昨年9月に刊行したが、他初雁会報のように8頁、10頁というようなわけにはいかず、創刊号も4頁と薄っぺらなものになってしまった。忸怩たる思いである。

しかし、総会後の記念講演が会員の市川正之医師(市川医院院長・高校18回)によって為されたのはたいへん嬉しいことであり、誇らしいことでもある。

時期を得た「介護医療とその対策」をテーマに45分間の有意義な講演に全員が耳を傾けたものである。今後も有意義な会員による講演を催したり、卓越した記事を会報に掲載していくつもりである。

(連絡先) 川高・同窓会事務局  
☎049(225)9071

同窓会各分野の活動

(1) クラブOB会

柔道部OB会

松本 豊二(高19)

川越高校柔道部OB会は、現役柔道部の支援とOB会員相互の親睦を図る目的で、平成6年2月19日川越プリンスホテルにおいて約80人が出席し、設立総会を経て発足しました。

今年2月5日(土)午後5時より第18回OB会総会を川越氷川会館で開催し、多くの方々が集まりました。

第1回総会には、当時の鈴木良栄校長、第15回総会には吉沢優校長(高19回)が列席されました。元柔道部顧問の元浦和高校校長鈴木薫二先生は毎年のように参加していただいております。そのほかに博報堂等全日本実業柔道連盟で活躍された、高校1回卒の恩田和也先輩には、現役柔道部員にご指導ご助言をいただきました。高校5回卒で元埼玉県副知事関口一郎先輩、高校14回卒で元埼玉県警察署長を勤められた江原隆先輩等々にも出席していただき、思い出話や現役柔道部員への激励をしていただきました。この日はやはり現役に戻られた、生き生きとした話ぶりが印象的でした。事務局長の二本松敬太先生のご尽力で、OB会全員530人の名札が現在柔道場に掲示してあります。OB諸兄には182

名の柔道場に足を運んでいただき、現役諸君と稽古をし、自身の名札を探していただければ幸いです。

これまでの現役支援活動としては、冷蔵・冷凍庫や試合研究用のDVDプレイヤーの寄贈等を行いました。

現役諸君には、山崎邦俊先生(高31回)後任の吉本真司先生ご指導のもと、平成11年以降途絶えている関東大会出場を今年こそぜひ達成して頂きたいとOB会の総意として念じてます。(連絡先) 二本松敬太

☎049(233)5449

蹴球部OB会

横山 司(高12)

昭和60年1月に正式発足した蹴球部OB会は、現在横山司会長のもと800名を越える会員を擁し、活発な活動を行っています。

活動の主なものはこちらの通りです。

現役支援活動

現役を応援するために金銭的支援を中心に行っています。

蹴球部OB会通信の発行

毎年1回12月に発行し、会員に郵送しています。会員に関する情報等他に、現役の活動報告(主に大会の成績)等を掲載しています。

川高蹴球会

若手OBを中心にして「川高蹴球会」というチームを作り、埼玉県リーグに加盟して試合を

行っています。現在は埼玉県社団法人サッカーリーグ二部Bブロックに入っています。新春懇談会と交流試合

毎年正月3日新春懇談会を開催し、同日現役とOBによる交流試合を行っています。更に夏休み中にも、高校サッカー選手権での活躍を期待してもらう一つの交流試合を行っています。

(連絡先) 川高サッカー部顧問 ☎049(222)0224

籠球部OB会

渡辺 耕造(高21)

籠球部OB会は、正式な組織としては平成21年に会則を制定し発足しました。それ以前は毎年1回現役との対抗戦、OB懇親会、また、県の大会にクラブチームとして出場していたこともありました。

歴史ある籠球部のOBの方々の中には、メルボルン及びローマと2つのオリンピックに出場された大先輩齊藤博氏(高4回)もおられ現在でも多くの先輩方が各方面で活躍されております。

今回組織の充実を図り、現役生徒への支援をより新たにスタートしました。

会則の目的に、「本会は、会員相互の親睦を図るとともに、現役が楽しく継続的に活動し、卒業後に本会会員になれるよう支援することを目的とする。」とあり、その趣旨に沿って活動

しています。現在会長1名、副会長2名、事務局長1名、事務

局員6名の構成となっています。近年部員数が増加傾向にあることで、OB会としても大変喜ばしいことと考えております。

バスケットボールを通してパランス感覚の優れた人材が育成されていくことを心から望んでいます。今後とも現役生徒の支援を続けていきたいと考えております。

(連絡先) 事務局長 赤木秀次 ☎090(8317)2766

水泳部OB会

佐藤 明(高20)

映画「ウォーターボーイズ」のモチーフになった水泳部の「男のシンクロ」は、昭和61年のくすのき祭を起源とし、昭和63年より恒例となった川高名物です。しかし水泳部の歴史の一部ではありませんが中心を占めるものではありません。

水泳部OB会は昭和50年頃から活動していましたが、川高創立百周年の平成11年、会の永続性を目標に、機能の明確化を目的に会則・細則を定め、組織の活性化を図りました。

以降毎年、母校への練習用機材の寄付、OB会報発行、総会・懇親会(3年毎)、OB会としてのマスターズ水泳への参加、OB会ホームページの運営、川越市民体育祭水泳の部への参加と運営支援、川高新記録樹立者の表彰などの活動を続けております。現在会員数は700余名

に達し、定期的に名簿の更新も

行われています。

現役生も我々の期待に応えるべく自己ベスト記録更新で奮闘しています。OB会としては現役生の目標達成の一助となるよう、支援体制をより一層強化したいと考えています。同時に、健康維持のためにも、一人でも多くのOB会員に「プールへ帰ろう」と伝えていきたいと思

ます。また、OB会の事業継続には若手の参画が重要です。本文をご覧になられた諸氏は是非一度OB会へと足をお運びいただきたい。ご一報をお待ちしています。連絡先(事務局) 村山英之(高35)

☎048(487)6309

j\_sn\_109@kne.biglobe.ne.jp

弓道部OB会

多加谷大二郎(高11)

弓道部は昭和15年に発足し、その後中断があったが31年に同好会として活動を再開、翌32年に部として認められ、34年から部費の配分を受けるようになりました。

再発足した当初は専用練習場などの施設が全くなく、武徳殿(現在の本丸御殿)や市内の町道場等で練習していたが、昭和39年に部員の懸命な手作りでの射場だけの、今から見れば誠に粗末なものでしたが、専用の練習場を作り上げました。

その後部員の熱意と関係する

先生方の努力が実って、昭和46年新体育館改築(母校創立七十周年記念事業)の関連事業として、射場・的場と揃った弓道場が建設されました。更にその後平成11年3月、母校創立百周年記念事業の一環である新体育館改築の付帯工事として現在の立派な弓道場が完成しました。

この間弓道部の活動も、県内から関東大会出場へと次第にレベルアップを続けてきました。平成12年同窓会報第56号に、当時の部顧問福内登茂栄先生が『弓道部近況』と題して次のように書かれています。「4月24日に関東大会県予選会が行われ、川越高校Aチームが団体優勝した」

本格的に強化に取り組み始めた平成7年以降、これで県内のあらゆる大会で全てに団体優勝したことになる。

今度は全国で実績を出す段階である。日頃の熱心な集中した稽古は、全国大会で勝ちたい、その一念で頑張っていると言っている良い……

その後の関東大会以上の戦績を、同窓会報掲載の「母校だより」の中の「部活動報告」欄から拾い上げてみると、

●平成12年 国体で準優勝

(川越農高との混成チーム)

●同13年 第1回東日本高校弓道大会男子5人制の部で優勝

●同14年 関東大会団体戦3位

●同16年 全国高校選抜大会準優勝

●同18年 東日本高校弓道大会で団体優勝

●同21年 全国高校弓道大会男子9位

と、今や母校弓道部は全国レベルの最高峰を狙える位置にあって、弓道部OBとして誠に頼もしく嬉しい限りです。

平成11年現道場の道場開きにOBとして招待していただきましたが、その時我が弓道部でも他の運動部OB会のようにOB会をつくり、OBの親睦を図ると共に、めざましい活躍をしている現役を支援していきたいという思いとその必要性を強く感じたのでした。

その後又歳月が経過してしまいました。弓道部OBの数は数年後には1000名に近付くと推測されます。現在未だ具体案は全くありませんが、弓道部OB会をこの際ぜひ設立したいと思っております。ご関心のある方はどなたでも歓迎ですのでぜひご連絡下さいますようお願いいたします。

(連絡先) 164-0003

中野区東中野4-7-11

☎03(3367)0645

Kagaya@amy.hi-ho.ne.jp

●卓球部OB会

浅見 忠司(高17)

卓球部OB会が発足したのは、川高開校百周年の平成10年6月でした。若い世代のOB有志の

呼びかけ、卓球部の伝統行事を継承し、OBの親睦を深めようと設立されました。

その伝統行事とは「津坂杯」です。OBと現役とを結ぶいわば共通語になっています。OBの津坂宗貞氏(高5)が大学進学後、卓球部の活動中転倒し、帰らぬ人となりました。その津坂氏を偲び、同期のOBが中心となって、ご尊父の同席のもと、OBと現役との交流試合が行われたのが始まりです。その後、毎年1回、交流試合は続き、現在に至っています。

「津坂杯」は、平成19年に第50回を迎え、この年には、その半世紀を振り返る記念誌「絆」(70ページ)を発刊し、OBと現役の皆さんに配布しました。「津坂杯」は主に学校側・現役生によって準備されてきました。OB会が主体的に運営するようになり、ご尊父もご実兄も既にお亡くなりになっていますが、津坂杯の伝統は、その名称のまま継続していこうと申し合わせをしました。そしてOB会のHPも事務局が工夫を重ねて立ち上げました。

津坂杯のその時々々の写真やOBの皆さんの思い出などの記事が満載です。卓球部以外の皆さんがご覧になっても、懐かしさがこみ上げてくると思います。

(連絡先) メールアドレス tsusakahat@yahoo.co.jp http://www.geocities.jp/kawakakat/

野球部OB会・快挙！  
マスターズ甲子園に  
出場

平成22年6月に開催された、マスターズ甲子園埼玉県予選のクライマックスシリーズで秩父農工科学高に九回七点差を追い付き、延長戦でサヨナラ勝ちをして優勝、甲子園出場を果たしました。

この結果、11月14日甲子園球場で、奇しくも昭和34年に現役生が対戦し、勝利した熊本の鎮西高校と当たりました。

前半3回迄(34才以下)は、リードをされていたものの1点差の接戦、後半の3回(35才以上)は、甲子園出場経験の多い鎮西打線と川高選手の失策が絡み大きくリードを許したが、大反撃で点差を縮めたところ、時間切れで終わってしまいました。しかし、ヒット数に大きな差はありませんでした。

ここで、特筆すべきは、川高応援団OB会と吹奏楽部OB会が総勢約40名、野球部OB及び選手家族約30名、地元明石南高校生徒、短大生チアガールの総勢100名以上の大応援団が規律正しい男子高校応援団長の指示のもとに、川高校歌を大合唱し、選手激励の応援歌を声高らかに球場内に響かせました。

この応援風景は、関係者によればマスターズ甲子園始まって以来(8年目)の出来事であり、

関係者及び相手の鎮西高校から賞賛の拍手を受けました。終了後、応援団の一部は応援に酔いしれて、又懐かしさに、目に涙をためて、感激している光景が印象的でありました。出場選手も夢の甲子園でのプレーに感激し、良き思い出が生まれました。



報告・近藤育三良(高12) (注)マスターズ甲子園とは？ 全国の高校野球OB・OGが、キャリアなどの壁を超えて出身校別に同窓会チームを結成し、「甲子園球場」で白球を追いかける夢の舞台を目指そうとするもので、2004年に始まった。 ※川高同窓会では、この快挙に対して、応援金10万円を贈りました。

(2) 同期生会

第5回生「喜寿」記念

加藤 博之

我々川越高校5回生は、還暦、古希、喜寿と記念文集「それぞれの旅」を3冊綴ってきた。川越高校同窓会の歴史に燦然と輝いている。

喜寿記念誌「続々それぞれの旅」は、65通(特別寄稿4篇を含む)をお寄せいただきました。これで大団円…?

でも辞書には傘寿(80)米寿(88)卒寿(90)白寿(99)、さらに茶寿(108)皇寿(111)とある。

長い長い人間の歴史のなかで生まれた節目節目の賀寿の言葉だ。平和の世の中なら人間の寿命は限り無い。喜寿で人生終わらない。

これを記念して2月26日に、川越東武ホテルにて、田中正同窓会長の臨席を仰ぎ、多くの同期生が集まり記念パーティーを盛大に開きました。



来年は喜寿の会を「高八会」

大河原光行(高6)

昭和52年、42才の集団厄払い

祈念の同窓会以来、古希の会まで8回の会合を開いた。

その他に約20名「高六楠の木会」があり、ラスベガス、アンコールワット等へ女房孝行の旅もしているという。

高六コンペは昭和54年から現在まで続き、プロ並のスコアも出た。

以下、高六メンバーの横顔を紹介します。

先端技術で静止衛星、大型テレビ画面、航空自衛隊レーダー技術者から、語学では英語、独語、スペイン語、ポルトガル語の達人達。

出版関係は少年マガジンの企画者で、川高百年誌の編集者。

政治家、外交官は各1名。金融証券では一時ニューヨーク支店長に3名が駐在。医師は地元のかかりつけといわれる外科、眼科、歯科。教員関係は、大学教授は皆文系で7名、小、中、高校教員は約40名、地元教育長や地学研究者もいる。前・地方公務員は十数名、その中に考古学者や獣医も健在。企業経営者は県商工会連合会長をはじめ、各地の各種の店舗を懸命に維持展開している経営者40名以上を数える。

特筆すべきは剣道八段、漫才師、チンドン屋の研究者が各1名健在。叙勲は政治家、外交官、検事、医師の4名。陶芸家や書家もいる。「第九」を趣味で歌っているのが2名だが、牧野先生門下ではない。

以上、消息のわかる会員のあ

らましであるが、なぜか各回の参加者が108名なのだ。なお、本校同窓会長は高六会員である。

川八会の近況

横川 毅彦(高8)

昭和31年3月川越高校第8回生として卒業した我々は、川越の「川」と高校第8回生の「八」をとり「川八会」と呼称し、強い同期意識をもとに活動している。年齢からすれば年金生活に入っているものの、第二の就職を含め現役で活躍するものが半数近く居り、会社役員、医師会役員、自営業、更にはボランティア等で活躍しているものも多い。

活躍の場には多くの同窓生がおり、応援を頂けることは大変ありがたいことだ。概ね2年に一度の開催地を変えての同期会懇親会、年2回の転地ゴルフコンペなどを開催し、親睦をかねながら情報交換をしつつ、今が青春とばかりに快適な生活を楽しんでいるのが最近の状況である。中には1年間に自分の年齢と同じ回数ゴルフを目標にしている者、農作業で収穫した農作物を無料配布に努める者、自学研鑽の成果を講演して地域社会に貢献する者などまだまだ元気な者が多い。

アメリカの詩人サミュエル・ウイلمانのことは「青春とは」で語られている、「青春とは人生のある期間を云うのではなく、心の機能を云うのだ。…」を信じて頑張っている。



平成22年11月24日 川八会 日高市 会場あさか

集まれば懐かしき高校時代の話に青春を謳歌し、高齢社会での生活の糧としている。話は品行方正なものよりは、「個性ある先生の事」、「下駄履きでの秩父連山への山登り」、「お濠跡の大きな凹地に入れられ周りを上級生に囲まれての応援練習」、「川越〜小川間駅伝大会」、「煙を吐く機関車に引かれる列車への飛び乗り通学」、「地方中学では優等生だったが、川越高校では校長呼び出しを受ける学生となった」など、人生の大半を過ごした大人には、何ともたわいない話であるが、そこに高校時代のすばらしさや懐かしさが生まれている。これが人生の一面なのだろう。これが今なお健在の川越高校8回生の姿である。お笑い下さるな!

高校10回卒

栗原 進

高校10回卒は昭和30年4月、33年3月まで在学したが、この間、国内では『太陽の季節』が世情を賑し、テレビ普及で「一億白痴化」が叫ばれ、東京タワーが完成、一万円札も発行された。一方、国外ではソ連スプートニク第1号打ち上げ、ワルシヤワ条約機構創設、EEC発足とめまぐるしい。

学校では特別クラス編成による予備校化を憂う川高新聞が生徒会活動やホームルームの活発化を提唱し、生徒総会では自治の確立が叫ばれた。

そんな中で、われらは勉学に追われながらも学校行事や部活動では常に全校のイニシアティブを担っていた。音楽部は関東合唱コンクール1位、テニス部も関東大会優勝を勝ち取った。野球部はわれらの卒業した翌年に夏の甲子園大会初出場を果たした。

残念なことは学校五日制がわれらの学年から廃止になり、県下一を誇る独立図書館は3年間建設資金の寄付を収めたが、開館は卒業の翌年になり、利用出来ずじまいだった。

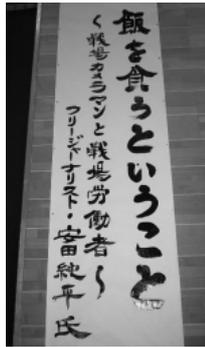
古稀を迎えた今、クラス会も盛んに行われ、1999年創立百周年以来オリンピックの年毎に盛大に学年同窓会を開いて元気を養っている。すでに鬼籍に入られている者30数名、彼らに合掌してこの稿を閉じる。

# 母校だより (二)

## 文化講演会

講師 安田純平氏(高44)

平成22年12月20日月曜日、午後1時半より川越高校体育館にて、文化講演会が行われました。講師には、高校44回卒のフリージャーナリスト、安田純平氏をお迎えしました。演題は「飯を食うということー戦場カメラマンと戦場労働者ー」でした。



### 略歴

入間市出身。1997年一橋大学社会学部卒業。同年4月に信濃毎日新聞に入社。2003年1月に同社を退社、フリーのジャーナリストとなる。2004年4月14日、バグダッド西方アブグレイブで地元住民の自警団にスパイ容疑で拘束され、17日解放。2007年5月からイラク軍訓練基地建設現場で料理人をしてながら取材。12月からはバグダード・インターナショナルゾーン内の民間軍事会社事務所で料理人をしてながら取材。2008年10～12月には、戦場出

稼ぎ労働者の実情を取材。著書には、『ルポ 戦場出稼ぎ労働者』ほか、『囚われのイラク…混乱の「戦後復興」』、『誰が私を「人質」にしたのかーイラク戦争の現場とメディアの虚構』がある。

### 〈戦場とは何か、その定義〉

私は戦場とは、爆発音が聞こえる範囲を戦場と定義します(ここで実際の爆発音を披露)。そこでは、大変な衝撃と地響きがあります。体の芯に響く感じがします。それが深夜に起こると、眠れません。相手を眠らせない心理的な作戦によって、相手にダメージを与えることが行われます。

### 〈イラク戦争、アフガン戦争の特徴①〉

イラク戦争やアフガン戦争の特徴としては、対テロ戦争が挙げられます。対テロ戦争とは、テロリストに対する戦争という意味です。ではテロリストとは何かというと、定義はありません。外務省も定義はないと言っています。相手がどういう相手か分からず戦うので、誰がテロリストかはアメリカ軍が決めることとなります。本当にその人がテロリストかということは分からないわけですから、関係ない人が戦争に巻き込まれます。すると、巻き込まれた人が抵抗

し始めます。昼は農夫で、夜は兵士というように。

アフガンスタンの6～8割はゲリラが支配しています。いわゆる最前線がないので、ジャーナリストが取材に行くところにいる人たちが実は武装勢力で、それに巻き込まれてしまうことがあります。政府関係者や警察官がゲリラに加担している場合もあります。その政府と警察に、日本は援助金を送っています。マフィアとのつながりもあります。中国の銅山開発の警備担当が現地の警察で、それに援助する日本という構図が見られたりもするわけです。



### 〈イラク戦争、アフガン戦争の特徴②〉

もう一つの特徴は、兵士を支える民間労働者がいることです。敵と戦うのが兵士の仕事であるのに対して、民間労働者の仕事は基地を造ったり、ものを運んだり、食事を作ったり、建物の整備をしたりすることです。私は民間労働者の実態を知りたいと思います。ジャーナリストは規制されていて彼らのいる

現場に入れないので、労働者としてイラクに入ろうと思いつきました。イラクの南隣のクウェートの人材派遣会社に申し込んで、現地で募集されている職種の一つである料理人として採用されました。技術も資格もない日本人は全く必要とされず、職が見つかるとまで2ヶ月半かかりました。最後に売りにしたのが日本食という文化でした。アメリカ企業が基地建設をしているところで勤め、最初はアシスタントでしたが、最後にはシェフの立場まで上り詰めました。

民間労働者の採用が多い理由は、国の立場からすると兵士には非戦時にも給料を支払わなければならないが、民間労働者には支払わなくて済むという理由が挙げられます。また、民間労働者の側からすると金を稼ぐことができるという理由が挙げられます。双方とも経済的利点があるのです。

### 〈二〇〇四年 イラク人質事件〉

日本人3人の人質事件があり、その一週間後にあった拘束事件のうちの1人が私でした。当時は人質にされるのは、「自己責任」だと言われていました。自ら現場に行くのだからそれは当然のことです。戦場では、国家が人を殺しています。実際に戦闘をする兵士は軍隊の中でもこ

く一部で、大多数は後方支援者です。日本はその後方支援を担っています。日本がそうした支援に参加するべきかどうかは、国民一人一人の判断で決めることです。その判断材料の多くは、現場にあるのです。だから私は現場へ行くのです。拘束されることは、決して珍しいことではありません。むしろ日常茶飯事です。私を拘束した人たちは、現地人の農夫たちでした。しかし、政府の発表や報道ではテロリストでした。実際にどういうことになっているのかは、現場に行かないと分かりません。情報を得る方法としてインターネットがありますが、これは他人がすでに知っている情報を流しているものです。だから、インターネットしか見ない人は新しい発見ができない人ということになります。誰も知らないものを見に行こうという気持ちこそ是非持つてほしいと思います。

以上のように世界を又にかけた安田氏のお話に、生徒は感銘を受けたと思います。他にも、中国の国際戦略、記者の仕事とはどういうものか、進路選択について、大学生活についてなどをお話しくださいました。その後、質疑応答が活発に行われ、盛会のうちに終了しました。

校内幹事 新井敏彦(高44)

# 母校だより (三)

## 出る杭をさらに伸ばす

### 川越高校スーパーサイエンスハイスクール5年目の成果

SSH企画部 阿部 宏

本校は、平成18年(2006年)に、文部科学省の科学振興事業「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の研究指定を受け、昨年度で5年目になりました。

### 昨年度の成果

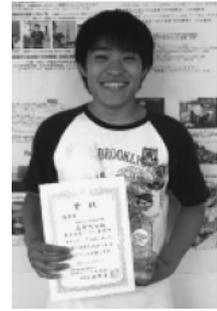
● **本校SSH事業が全国トップ評価**  
文部科学省による3年間の事業評価で、SSHの趣旨を理解し今後の発展が期待できると、上位25%以内のA評価を受けました。

● **全国物理コンテストで銀メダル**  
8月に行われた物理チャレンジで2年生の串崎康介君が見事銀賞を受賞、同じく2年生の山田涼大君が優良賞を受賞しました。串崎君は、平成23年7月の物理オリンピック国際大会日本代表候補に選ばれました。



物理コンテスト全国大会

● **第1回日本地学オリンピック全国大会優秀賞受賞**  
3月に行われた大会で3年生の高村悠介君がベスト8に選ばれました。



地学オリンピック

### ● 全国大会出場決定

第3回日本地学オリンピック一次選抜で、2年生浅見慶志朗(あざみけいしろう)君が二次選抜出場を決めました。

### ● 国際シンポジウムで一位

8月に静岡で行われた、台湾HSP指定校(台湾のSSH相当校)10校と日本のSSH指定校10校合計80名によるシンポジウムで、研究発表部門一位、競技会部門2位の成果があげられました。



台日科学教育交流シンポジウム

● **4割の生徒が、SSHが本校志望の理由の一つと回答。**今年度入学生365名中143名。  
● **8割の生徒がSSH事業で科学への興味が高まったと回答。**今年度入学生研究グループアンケート

● **研究規模大。** 全学年で約200名の生徒が研究活動とそのまとめをおこないました。

● **900名参加「冬休み科学教室」**  
12月25日川越市内の小中学生と保護者約700名が川越高校に來校し、川高生103名、川女生108名、川越南高生11名の合計222名が先生役をつとめ、科学の楽しさを様々な実験で伝えました。

### SSH事業の目的

「将来の国際的な科学技術系人材の育成」および「高大接続」、「理数系教育の改善」が目的です。本校指定期間は5年間(平成18年〜22年)で、その間に高校レベルの研究指定としては破格の年間一千万円レベルの研究資金の支援と人的支援を受けました。平成22年度は、全国で125校が指定を受けています。意欲のある生徒の能力を伸ばす。出る杭を更に出す、がSSHのモットーです。

本校SSHのテーマは「知の融合」です。趣旨は、人文・社会・自然科学、すべてに渡る広い視野を持って、分野横断的・融合的な新しい学問を創造しよう。人材を育てるといふものです。本校SSHのもう一つの特徴は、全生徒に科学リテラシー教育を行うということです。現在の社会は科学や科学技術が無縁のものとして生きて行くことは不可能です。今、科学の最先端ではどのような研究が行われ、それが科学技術としてどう社会で使われていくべきか。それを

全員に教養として身につけて欲しいというのが本校SSHの目的の一つです。

### 主なSSH事業

● **ノーベル賞候補本校OBによる全校講演会**  
「ニュートリノと宇宙と素粒子」というテーマで、本校OBの東大宇宙線研究所長の梶田隆章先生にご講演いただきました。先生は、理論ではゼロとされていたニュートリノの質量を、神岡鉱山地下のスーパーカミオカンデで見えられました。小柴先生の直弟子です。



梶田先生ご講演

### ● SSH宿泊研修

7月下旬二泊三日で、野辺山宇宙電波観測所と神岡宇宙素粒子研究施設の見学・実習をおこないました。参加生徒は1年生20名、2年生4名です。日本が誇る最先端の宇宙観測施設を見学し、宇宙と素粒子について理解を深めました。

● **英語プレゼンテーション講座に82名参加。** 日本科学未来館/NASAのプレゼンテーション講師のヴィアヘラー・ギャリー先生により、英語で分かりやすく相手に内容を伝える講座を

施しました。文系・理系に関係なく大勢の生徒が熱心に参加し、本校生徒は最高との評価をいただきました。



45m電波望遠鏡

### 今年度総括と来年度以降の取組

今年も、科学コンテスト、地域の科学振興、科学展などで多くの成果があげられました。SSH事業の目標である「意欲のある生徒の能力を伸ばす」という趣旨の通り、全学年の生徒達がSSH事業で志を高く持ち、粘り強く着実に力をつけ、結果を出してくれたと思います。この結果は、もとより本人の努力の賜ですが、SSH事業により、意欲のある生徒達がまるとり、高校の勉強の枠を超え、やりたいことを徹底的にできる場ができたということが、成果がでた理由としてあげられると思います。現在2回目のSSH指定を申請中です。新SSHでは、「知の融合」に加え、「知の継承・科学ネットワークの水平展開と垂直展開」を掲げ、これまでに得た成果の普及と卒業生まで含めた研究能力育成を目指します。ぜひご助言・ご意見をいただければと思います。本校SSH事業への同窓会による支援に対し、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

2010年度 大学等入試合格状況一覧

母校だより (四)

国立				公立				私立				その他			
大学略称名	現役		浪人		大学略称名	現役		浪人		大学略称名	現役		浪人		
	合格	入学	合格	入学		合格	入学	合格	入学		合格	入学	合格	入学	
帯広畜産大			1	1	岐阜薬科大			1		中央大	47	7	46	5	
北海道大	2	2	3	1	埼玉県立大学	1	1	1	1	東京電機大	3		4	2	
東北大	5	5	8	8	首都大学東京	8	6	1		東京農業大	9		10	2	
大阪大			1	1	金沢美術工芸大			1		東京薬科大	3		2	1	
筑波大	6	6	3	1	計	9	7	4	1	東京理科大	61	12	56	5	
名古屋工業大	1	1			<b>大学校</b>				東洋大	3	2	8			
群馬大			3	3	<b>大学略称名</b>				日本大	15	4	26	3		
埼玉大	12	7	6	5	<b>現役</b>				日本医科大			1			
千葉大	6	4	5	3	<b>浪人</b>				文教大	3	1				
東京海洋大	2	2			<b>合格</b>				法政大	27	3	21	2		
電気通信大	2	2	3	3	防衛大学校				星薬科大	5	1	6			
東京大	2	2	4	4	私立				武蔵大	7	1	6			
東京学芸大	3	3	4	2	<b>大学略称名</b>				明治大	93	22	85	13		
東京工業大	6	6	8	8	<b>現役</b>				明治学院大	2		3	1		
東京農工大	10	9	3	2	<b>浪人</b>				明治薬科大	5	3	10	1		
東京外語大	1				<b>合格</b>				立教大	63	13	44	2		
一橋大	4	4	5	5	青山学院大	11	2	8		早稲田大	86	30	62	17	
横浜国立大	2	1	2	2	学習院大	12	1	13	1	関西学院大	4				
九州大	1	1			北里大	2		10	2	同志社大	2		1	1	
京都大	1	1	3	3	慶應義塾大	23	8	36	16	立命館大	3		9	2	
長崎大	1				国学院大	5	1	4		その他	15	17	32	14	
新潟大			2	2	国際基督教大	1		1		計	572	139	576	105	
国立大医学科			2	2	駒澤大	2		3	1	<b>その他</b>					
計	67	56	65	54	埼玉医科大			2	1	<b>大学略称名</b>					
					芝浦工業大	17	1	27	4	<b>現役</b>					
					上智大	29	8	16	4	<b>浪人</b>					
					成蹊大	4	2	11	2	<b>合格</b>					
					成城大	2		4		文京学院短期大			1	1	
					専修大	3		8	3	計			1	1	
					大東文化大	5		1							

部活動の主な戦績

- 陸上競技部**
  - ・新人陸上競技会
  - 100M 優勝 鈴木俊(2)
  - 110H 準優勝 鈴木亮(2)
  - 400H 準優勝 鈴木亮(2)
  - ・日本ユース選手権
  - 100M 出場 鈴木俊(2)
  - ・関東選抜新人大会
  - 100M 6位 鈴木俊(2)
  - ・関東選手権県予選
  - 3000SC 黄木(3)
  - ・高校駅伝県予選 16位
- 弓道部**
  - ・高校弓道新人戦 準優勝
  - ・東日本高等学校弓道大会出場
  - 小松、清水、水村(2)
  - ・県高等学校弓道選手権
  - ベスト16 C、Aチーム
- 硬式テニス部**
  - ・東関東公立学校テニス大会
  - ベスト4
  - ・県新人大会西部地区
  - シングルス11位 松田(2)
  - ・県新人戦 団体ベスト16位
- サッカー部**
  - ・県一次予選 準決勝進出
  - ・秋季西部地区大会
  - Cブロック1位
- 水泳部**
  - ・県公立学校水泳大会
  - 50M 背泳7位 前田(2)
  - 100M 背泳5位 森(1)
- バドミントン部**
  - ・新人大会西部地区予選
  - ダブルス5位 横内、北之口
  - 11位 樋口、森脇(皆2)
  - 県大会出場
- 柔道部**
  - ・西部地区秋季大会
  - 81kg級準優勝 三枝(2年)
- 排球部**
  - ・全日本バレーボール県予選会
  - 県大会出場
- 音楽部**
  - ・県合唱コンクール 銀賞
- 吹奏楽部**
  - ・県吹奏楽部コンクールAの部
  - 地区大会金賞 県大会銅賞
  - Dの部 優秀賞
- 古典ギター部**
  - ・全国学校ギター合奏コンクール 金賞
- 放送部**
  - ・全国放送コンクール県予選
  - 10位内入選
- 英語部**
  - ・英作文コンテスト
  - 初級の部6位 持田(1)
  - ・県高等学校英語弁論大会
  - 審査委員特別賞 牧野(2)
- 物理部・生物部・地学部・化学部・SSH**
  - ・全国物理コンテスト
  - 銀賞 串崎(2)
  - 優良賞 山田(2)
  - ・台日科学教育交流シンポジウム
  - ・プレゼンテーション部門優勝
  - ・競技会部門準優勝
  - ・全国高校化学グランプリ
  - ・関東支部 奨励賞 小俣(2)
- その他**
  - ・全日本武術太極拳選手権
  - 個人 刀術A 4位 杉原(2)
  - グループ対練 準優勝 杉原
  - ・敬愛大学高校生論文コンテスト 最優秀賞 大橋(2)

# 川越中学校初代校長 増野悦興の謎 (九)

滝澤 民夫 (高18)

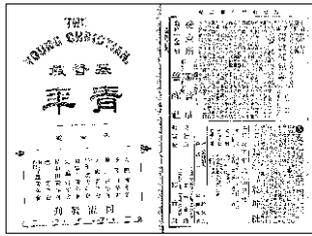
一八九九(明治三二)年の埼玉県第三中学(川越中学)開設に際し、初代校長増野悦興は北米ニューイングランドで見聞した「自修自治自活」の精神を、「礼・節・質」の三大校風(「会長」の論告)、『埼玉県第三中学校学友会報』(一)とした。

キリスト教主義ではなく、儒教道徳の涵養を中学教育の柱とした増野自身は、どのような講話をしたのか。「倫理」の授業では社会の出来事を取りあげ、福沢諭吉の『時事新報』社説をよく題材にされた(矢部謙次郎)といわれる。明治維新の三年前、六五(慶応元)年生まれの前野は没落士族の子弟としての矜持とボストン仕込みのキリスト教精神のはざま、青年に何を託そうとしたのだろうか。

まず、増野の教育理念を考えるために、その思想形成での儒教とキリスト教の受容過程を考えてみたい。幼少時から津和野城下で敬神観の篤かった祖母に養育された増野は、儒教的な道徳観からキリスト教の世界観へと目を広げてゆくのだが、両者は混在してこの明治青年の精神を形造っていたとみてよい。増野が自説を世に問いだすのは二三歳頃で、川越中学校長就任の一〇年前である。昨秋、東大法学部近代法政史料センター(明治新聞雑誌文庫)で、初期の雑誌論説である八九年三月の「基督教に対する青年学生の感情」(『青年之手綱』六号)と九月の「基督教夫婦余論」(同一一

号)を見つけることができた。

『青年之手綱』は八八年一月に岡山の中国基督教青年会の『青年会雑誌』が改題された雑誌で、この前後は西日本各地でキリスト教青年会(YMCA)の設立と機関誌の発行が相次いでいた。それらは『青年会月報』(神戸)・『青年会雑誌』(岡山)・『知青年』(鳥取)・『基督教青年』(大阪)・『青年之光』(京都)などである。このうち、大阪・神戸の青年会を中心に八九年九月には『基督教青年』が「同盟刊行」され、増野は四号から編集人となり、その実績もあって翌九〇年八月にボストンに修学する。幻とされていた『基督教青年』だが、先般、ご遺族増野潤吉氏が保管されていた一〇号分を不二出版から復刻することができた。



『基督教青年』4号表紙 (1889.12)

卒業直前に同志社英学校を退学した後、伝道者の道を歩みはじめた若き増野の主張は、川越中学での生徒への語りへとつながっていると思われる。「基督教に対する青年学生の感情」は、おおよそ次のように

語られている。

欧州太古の史上を裝飾するのは希臘の文華である。ソクラチス、プレート、アリストートル、テールス、アナキシマンデル、ヘラクリタス、ピサゴラスなど、「アカデミックスクール」、「ペリパテチック、スクール」と各所に学派が青年子弟を教育している。その時代に、猶太の「ナザレ寒村一工匠」の子耶穌は、真神の独子で十字架の上に死んだとする基督教に対し、智慧を求め高慢な希臘人は聞く耳を持たなかった。

今の青年学生も同様である。しかし儒教の道徳は人倫を説くが天倫には及んでいない。一方、基督教は教育の社会では学生を薫陶して、その精神を發育する徳育の基礎となる。古今大人の最も心に憂うたことは「良心と自己の一致」をどう図るかということだった。孔子も王陽明もナポレオン・ボナパルトも、白河上皇も「鴨川の水、双六の賽、山僧」と共にこれを問題にしよう。東西俊傑の伝記を読むと、聖書を熟読玩味したマルティン・ルーテルが「義人は信仰に由て生くべき」の教理を解して心思一変したとある。ところが東洋俊傑の伝記は「豁然として悟る」という程度である。基督教の偉大なのは、古今の大人君子、英雄豪傑ができなかった人類道徳の世界に空前絶後の一大変革を与えた点にある。学窓にある青年男女学生が忘れてはならないのは、将来の日本の問題に注目を怠らないことと、自己の心情に謹厳な省察を遂げることである。

このなかで、増野は世の青年男女のあるべき生き方を次のように考えていた。



増野悦興「基督教に対する青年学生の感情」『青年之手綱』6号(1889.3)

キリスト教の受容は宗教心だけではなく、生き方の選択であった。それは、「基督教夫婦余論」により鮮明に見てとれる。

基督教道徳の他教道徳に比べて卓越する点は夫婦の倫である。一夫一婦 姦淫以外の離婚禁止・未婚での不義姦淫の罪・相婚後の夫婦一体・夫は妻を愛し妻は夫に服するなどの金教玉訓で、男女の関係は清潔を保たれ、不義姦淫の空気は社会から一掃される。良人の不道徳に心を苦しめる可憐の妻、愛子の放蕩に氣を痛める老父母を思うと、基督教夫婦論・基督教女学説は男女の関係から起こる社会万般の悪弊を矯正し、清潔の天下をもたらそうと願うことにほかならない。舞踏会・競馬会の失敗後、条約改正問題の喧しいなか、国粹主義が勢いを増し、夫婦の相愛は父母の孝養報国の義務をなすが、それは男女七歳にして席を同じくせず・夫婦別あり・云々なれば去るなどの道徳主義によるもので、夫婦間の関係を極め

て冷淡に思考してきたことによる。基督教は夫婦相愛を理由に他の大義や報国の丹心を消滅させない。夫婦の愛は社会万種の愛の根源であり、夫にとり地上の最親の朋友・最近の親戚は妻である。夫婦一体は形容詞ではなく事実に行うのである。孝愛両立は可能で、英国の清教徒ジョン・ハッチンソン夫妻の言行は欽慕すべきものだ。基督教徒は妻を地上の無二の伴侶とし、快樂苦難を共にし、同心同意で愛し相助け、一体の実に適せんと期す。信仰・正義・義務の諸問題には夫婦相携えて馳騁するものである。

この夫婦論は終生、増野の道徳観、倫理観の根底に流れる意識となった。そこには、悦興を生んでほごなく病軀を理由に離縁され世を去った、面影も知らない母への思慕と、单身江戸に出て太政官行政局に奉職し再婚した父貞吉への幼少時からの拭いきれない不信があったとみてよい。母は津和野藩御用達の商人堀家縁戚の素封家の出であったとされる。この成育歴は温かな家庭団樂を味わえなかつた悦興少年に、狷介孤高ともいえる妥協を許さない潔癖感をもたらした、それが青年に対する謹厳実直な道徳教育となったのではないかと考えられる。

「我が東洋の男子が其妻を奴隷視し、妻は病床に臥すれども己は花街に流連して、家を顧みざるが如き薄情陋行」(『基督教夫婦余論』)と断じた論調は、他人ごとではなかつたのではないだろうか。『基督教青年』は折からの廃娼運動の動向も報じ

## 平成22年度会計収支計算書(案)

収入総額	支出総額	差引残高
27,145,635円	8,406,346円	18,739,289円

## 収入の部

科 目	予算額(円)	決算額(円)	摘 要
入会金	1,860,000	1,854,400	全日制363名+定時制20名
終身会費	2,500,000	1,788,200	362名
名簿販売	1,000,000	250,240	50冊
預金利息	15,000	8,443	定期・普通
その他収入	50,000	317,647	県警くすの木会寄付等
小 計	5,425,000	4,218,930	
前年度繰越金	22,926,705	22,926,705	21年度より繰越
合 計	28,351,705	27,145,635	

## 支出の部

科 目	予算額(円)	決算額(円)	摘 要
事業費	6,902,104	4,967,706	
(1)会報発行費	4,192,104	4,203,902	24,800部
(2)母校教育活動支援費	600,000	548,004	SSH 事業支援、進路指導支援、その他教育支援
(3)諸事業費	2,110,000	215,800	秋季散策会支援、くすの木俳句会補助等
事務費	3,141,000	2,771,248	通信費、事務手当、需用費等
会議費	300,000	194,000	総会、記念講演会及び文化講演会謝礼
役員交際費	200,000	210,000	地区初雁会等お祝い金
慶弔費	100,000	163,392	叙勲褒章記念品、生花等
予備費	200,000	100,000	マスターズ甲子園出場支援
小 計	10,843,104	8,406,346	
次年度繰越金	17,508,601	18,739,289	23年度へ繰越
合 計	28,351,705	27,145,635	

## 平成23年度会計予算書(案)

収入総額	支出総額	差引残額
30,064,289円	11,151,000円	18,913,289円

## 収入の部

科 目	予算額(円)	摘 要
入会金	7,260,000	363名×@20,000円
終身会費	3,000,000	600名×@5,000円
名簿販売	1,000,000	200冊
預金利息	15,000	
その他収入	50,000	
小 計	11,325,000	
前年度繰越金	18,739,289	平成22年度より繰越
合 計	30,064,289	

## 支出の部

科 目	予算額(円)	摘 要
事業費	7,210,000	
(1)会報発行費	4,500,000	30,000部
(2)母校教育活動支援費	600,000	SSH 事業運営支援、進路指導支援、その他支援(各200,000)
(3)諸事業費	2,110,000	地域事業への貢献(前年度持ち越し)、秋季散策会・くすの木俳句大会補助
事務費	3,141,000	通信費、事務手当、需用費等
会議費	300,000	総会、役員会、記念講演会・文化講演会講師謝礼
役員交際費	200,000	地区初雁会等お祝い金
慶弔費	100,000	叙勲褒章記念品、生花等
予備費	200,000	
小 計	11,151,000	
次年度繰越金	18,913,289	
合 計	30,064,289	

※定時制 PTA 教育振興会、閉課程行事実施委員会より、決算残額229,650円を同窓会にご寄附いただきました(4/1付)。

平成22年度 事業報告

4月16日(金)会報発送

17日(土)第一回会報編集委員会、以下月一回開催

5月9日(日)定例総会  
総会・記念講演・懇親会  
於・氷川会館

8月29日(日)

第九回くすの木俳句大会  
於・同窓会室

10月9日(土)秋季散策会

江戸深川発祥の地散策  
(平成23年)

2月19日(土)会長副会長会

4月23日(土)  
定例役員会・会計監査会

○くすのき句会毎月第一土曜日、  
於・同窓会小会議室  
○各地区初雁会 定例総会及び  
講演会、散策会等随時開催

平成23年度 事業計画

4月16日(土)会報発送

23日(土)第一回会報編集委員会、以下随時開催

5月29日(日)定例総会  
総会・記念講演・懇親会  
於・氷川会館

8月28日(日)

第十回くすの木俳句大会

10月22日(土)秋季散策会  
喜多院、川越城本丸御殿周辺

○くすのき句会毎月第一土曜日、  
於・同窓会小会議室  
○各地区初雁会 定例総会及び  
講演会、散策会等随時開催

事務局だより

叙勲授章者

●平成21年秋の叙勲者

瑞寶双光章

福田義久氏(高7)

黄綬褒章

石川美智夫氏(高7)

●平成22年春の叙勲者

瑞寶双光章

大野晃一郎氏(高9)

●平成22年秋の叙勲者

瑞宝中綬章

鈴木邦治氏(高6回)

寄贈著者紹介

第5回生同窓会・喜寿記念誌

『続々それぞれの旅』

岡部延夫氏(高2回)

『むすめふさほせ』

宮岡成次氏(高6回)

『三井のアルミ製錬と  
電力事業』

安藤友司郎氏(高8回)

『はじめての般若心経』

松浦尚明氏(高13回)

『おくのほそ道の今を訪ねて』

菊池建太氏(高17回)

『天然水の歴史と今―究極の  
エコロジー産業をおって』

関口新太郎氏(高34回)

『浦賀水道記 渡海の章』

I・II(上下)』

安藤優一郎氏(高35回)

『大名行列の秘密』

『江と徳川三代』

各界で活躍の同窓生

★文学界

●高26回・奥泉康弘氏

(ペンネーム・奥泉光)

二〇一一年本屋大賞候補

「シューマンの指」



●高47回・藤野峰男氏

(ペンネーム・沖方丁)

二〇一〇年本屋大賞等受賞

「天地明察」



★経済界・マスコミ界で活躍の兄弟による著作

高20回・辛坊正記氏

高27回・辛坊治郎氏



●会員名簿第十九号 購入のお願い

予約されていないながら、ご購入されていない方が約1000名おられます。早めのご購入をお願いします。

あらたに購入希望の方は、事務局へお問い合わせ願います。

●終身会費納入のお願い

同窓会会則第十条により、平成23年度卒業生から「正会員は入会の際、2万円を納入するものとする」となっております。

ただし、それ以前の卒業生につきましては、「入会の際、5000円を納入し、更に卒業後25年経過した際、終身会費5000円を納入するものとする」となっております。

従いまして、卒業後25年経過した皆さまで、まだ終身会費の納入がお済みでない方は、ご購入いただくようお願いいたします。

●同窓会ホームページをリニューアルしました。

ニュー・アドレス

<http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

同窓会事務局との情報交換に  
便利です。

皆さまの情報をお待ちしております。

なお、今までのホームページも本校ホームページとリンクして残してあります。過去の情報はそちらをご覧ください。

また、メールアドレスも設定しましたので、ご利用下さい。  
alumni@hb.tpi.jp

今号の編集委員の皆さん



前列右より、

内藤 豊(高21)

望月 勝(高41)

「定時制特集」のリーダー

仲田 勝己(定16)

事務局・岡部 恒雄(高15)

後列右より、

菊池 建太(高17)

編集委員長

尾崎 勝美(高11)

圓山 寿和(高17)

栗原 忠男(高20)

この他、伊藤豊(高2)、栗原由

郎(高21)、新井敏彦(高44・校

内幹事)が担当しました。